

福祉教育常任委員会視察研修報告

福祉教育常任委員会

委員長 赤祖父 裕美

- 1、日時 平成 24 年 7 月 12 日（木）・13 日（金）
- 2、出席者 赤祖父裕美、松原栄樹、鈴木美智枝、福島清彦、植中都、山本吉宗、松井圭子、議長、健康福祉部次長、議会事務局
- 3、研修先 千葉県柏市
対応先 保健福祉部、UR 都市機構、柏市議会古川議長、
- 4、研修内容 ○ 長寿社会のまちづくり
○ がん対策基本条例・自殺予防対策推進条例について
- 5、調査目的 ○ 湖南省の高齢化率は、今後急激に上昇することが推測されている。これからのまちづくりの参考のため調査、研究をする。
○ 柏市では、超党派の議員提案による『命を守る 2 条例』制定されている。議員の仕事が執行部へのチェック機能だけでなく、議員自ら政策立案し、提案型議会の実現に向けて背景と経過、ノウハウや成果について調査する。

6、調査と課題

長寿社会のまちづくり

柏市豊四季台地区は高齢化率 40%を超える勢いで急激に高齢化が進む。誰もが安心して元気に暮らすことができるまちを具体的に検討し、具現化するため、研究会を立ち上げている。

柏市と東京大学、都市再生機構が連携して取り組んでいる事は大変興味深い。3つのワーキンググループを設け、超高齢社会・長寿社会に対応したまちづくりの具体化をすすめている。

目指すまちの姿

- 1、いつまでも在宅で安心した生活を送れるまち
- 2、いつまでも元気で活躍できるまち

その実現のために

- 1、 地域包括ケアシステムの具現化
- 2、 高齢者の生きがい就労の創成・・・を進めている。

特に興味深く感じた事は、在宅医療推進のため医師確保や質向上や情報共有システムの構築などの東京大学と連携や、高齢者の住まいとして医療・看護・介護を一体的に提供するサービス付き高齢者向け住宅の整備を進めている点である。

湖南省では、24時間対応可能な訪問看護ステーションの体制は充実してきたが、大学との連携、医師不足等が課題である。

また、高齢者が生きがいを持つために「働く」場の提供として、地域の課題解決に貢献できる就労、例えば放課後の子どもの居場所となるための子育て支援、保育・教育現場への出前講座など、健康維持をはかると共に、高齢者の能力を活かしたまちづくりが期待できる。この計画の完成は平成25年度を予定している。

今後は、国からの交付金をうまく活用しながら、高齢者向け住宅建設など、高齢化社会への対応策として、新しいまちづくり構想の参考にしていきたい。



がん対策基本条例・自殺予防対策条例について

柏市議会では、2010年、研究会をきっかけに親睦を深めた当選回数1回から3回の若手議員が党派関係なくワーキンググループなど政策研究を重ね、市関係部局との意見交換を行い、2011年3月議会に「柏市がん対策基本条例」、6月議会に「柏市自殺推進条例」を議員提案条例として上程し可決された。

議会からの「政策要望」であることから、庁内に「がん対策検討会」や「自殺対策ワーキンググループ」が発足され、施策の強化体制がひかれると共に、次年度予算に反映し、その効果が期待される。

実績については、年度途中で、また、直ちに効果を発揮するものでもないので、中長期的視点で事業実施されている段階で、評価が出されるのはまだ先のようなものである。

政策にあたって、議員相互の議論が重要であり、今後の議会改革として議員個々の政策提案ではなく、議員同士が議論したうえ、合意した意見提案が求められている。議会改革が始まっているなか、意識改革もどのように進めて行くか、今後の課題である。

また、議会事務局体制の強化、法規関係の充実も求められるところである。議会が提案することによって、執行部との関係や見方も変わってきたとのことで、今後、湖南省議会も政策立案に向けて研鑽を深めて行きたい。



以上報告いたします。